

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0302 NO103

校長 伊波喜一

卒業に 先駆けするか 送る会 言葉と歌に 思い託して

3月になった。昨日から暖かい日が続いている。陽の温かさに包まれて、6年生を送る会が催された。各学年からお世話になったお礼を述べたが、歌あり劇ありの中に6年生の様子をよく捉えていて、感心した。6年生からの歌と合奏は圧巻で、言葉一つ一つに思いが感じられた。参観していた保護者の涙腺も緩んだようだ。小学校6年間を通うと2191日となる。時間に換算すると52584時間である。これだけの膨大な時間と思いが合わさって、卒業の節目を迎える。保護者にとっての6年間は、まさに子供と共に泣き笑いしたものであっただろう。保護者の願いは我が子の成長に尽きる。しかし、子どもが一人立ちしてからは、手を差し出すよりも見守ることが主となる。そこで、家庭では学校教育に上がる前の躰(しつけ)を重視した。とりわけ、感謝する心を育むことに心血を注いだ。何か一つ行うにも一人では出来ない。黙々と支える陰の人がいればこそ、出来ることである。会の掉尾で「ありがとうございました」と感謝を伝えた6年生達の言葉を、未来への希望として感じている。